

(図2)

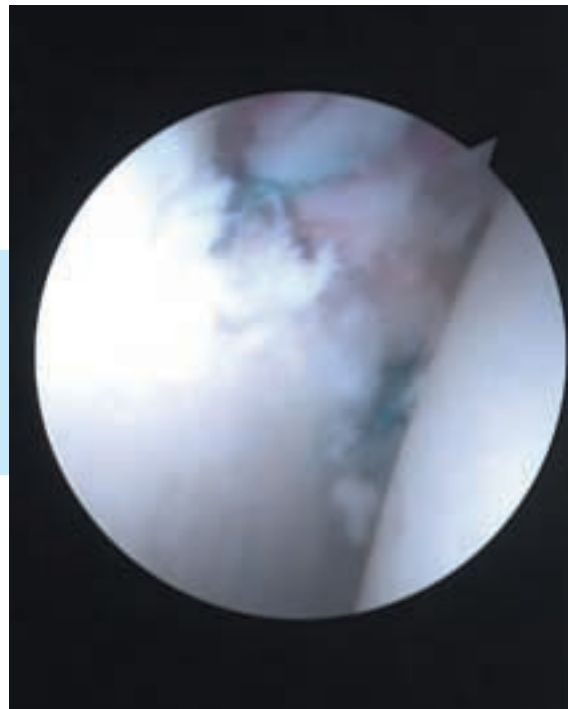
24歳 モーグルスキー選手

上方から見た肩関節内部
右下の丸い部分は上腕骨の
頭である

臼蓋（関節の受け皿）の前方には
本来関節包がついているが剥がれ
落ちてしまっている

(図3)

剥がれ落ちた関節辺縁部が
修復されている
(関節鏡視下肩安定化手術)



●手術後の経過

手術後は翌日より三角巾で歩行可能です。腱板損傷の修復後には三角巾ではなく枕を抱えたような装具でわきの下を少し広げた形で固定します。

2～3週の三角巾固定（腱板損傷の修復手術では4～6週）を行い、その後は各スポーツに合わせた機能訓練プログラムに従ってリハビリを行います。ベネット病変単独の場合は1ヶ月で投球再開できます。そのほかの処置ではおおよその目安として7週で水泳、3～4ヶ月で投球練習開始、6ヶ月でスポーツ復帰となります。